

# ■ 2020年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	数学(文系)
----	--------

総括

試験時間	150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
		分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年と同じ大問3題で、文系にしては難しい問題が出題されている。

〈特記事項・トピックス〉

確率の問題が出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

標準的な問題を確実にこなせるようにしたい。

過去問を研究し、考える力を養い、もし計算量が多い場合も正確に答を出せるようにしたい。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	I, II	2次方程式 微積分	2次方程式の解の存在範囲の問題。 積分の計算を工夫する。	標準
2	記述	A, B	ベクトル 図形の性質	Hは三角形ABCの外心であり、重心でもある。 ベクトルの内積を利用しても、図形の性質を利用してもよい。	やや難
3	記述	A, B	場合の数 数列	数え上げの問題であるが、 $S(n)$ 、 $R(n)$ は数列の和の公式、階差数列を利用する。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。